

来・ぶらり

文明版三帖和讃

「三帖和讃」は浄土・高僧・正像末の三和讃の総称。

親鸞聖人が、仏・菩薩や高僧方の徳を仰ぎ讃嘆して詠じた和語の仏教讃歌で、蓮如上人が吉崎滞在中の文明五年（1473）に「正信偈」と併せて四帖一部として開版、木版印刷により広く流布伝播が図られた。それ以後、真宗門徒の家庭では朝夕の仏前勤行に「正信偈・和讃」が定着していった。



桜ライブラリー

鍋島 直樹（法学部教授）

図書館は、自分の居場所である。

ただ黙って、一つのことに集中できるからである。数万冊の本たちも、自分のページが開かれるのを待っている。メールや会議などの喧騒を離れて、静かに過ごす時間は、自分自身を省みる時間にもなる。

もちろん、図書館で勉強するつもりが、ぐっすり本を枕に眠ってしまったことも多い。起きあがった顔には、本の跡がついていたりして…。資料が見つからず、研究も進まず、むだに思えるときもある。しかし、図書館は、「ひたむきに努力することの大切さ」をいつも教えてくれる。また、優しいライブラリアンのサポートも心強い。何よりもこの龍谷大学の図書館は、今の自分を育ててくれた、かけがえのない空間である。

ここで、海外の図書館での忘れられない思い出を紹介したい。

サンフランシスコのベイブリッジを北へ、50マイル。カリフォルニア大学バークレイ校がある。UCBの学生たちは、大きなバックパックを背負って、図書館に通い、よく勉強する。私も、秋から冬にかけて、講義時間外は、一日、ドー・ライブラリーとよばれる図書館で過ごすようになった。

そのドー・ライブラリーの前に、一本の桜の木があった。古く苔むしたその大きな桜の木は、やがて春になり、薄いピンク色の花をつけた。蕾から花が開いていく桜の姿をながめることは、異国生活のなかで心安らぐ一時だった。

その日も、ボストンやロスでの研究発表が迫るのにもかわらず、英語文献の読解や原稿執筆が思うように進まなかった。日の沈む頃、図書館を出て、その桜の木の下にしばらくたたずんでいたときのことである。ひらひらと散る桜を見ていた私は、なぜか自然に涙があふれてきた。桜の花は美しく咲いたばかりなのに、咲いた先から、なんのためらいもなく、さらさらと散っていたからである。

ふりかえってみると、当時の私はたくさんの理想を握りしめていた。もっと成熟した英語で仏教思想を表現したい、世界の苦しみの解決に貢献できるような研究がしたい…。しかし「しなくてはならない」「こうありたい」という想いに苦しんでいる私の前で、桜の木は何もいわず、花びらを散らせながら、こう語りかけてきた。

「大丈夫、そんなにいろんな想いにしがみついても…。あなたの抱えている執着から自由になれるといいんだよ。あなたはありのままのあなたでいい。」

と。私にとってその桜の木は、仏のような温かい存在となった。

私は、桜の木が時間をかけて美しい花を咲かせるように、図書館で過ごす時間を大切にしたい。限界を感じても、失敗をおそれずに努力し、しかし同時に、咲いたら散ればいい。さらさらと散っていく桜の花のように、その時がくれば、自然にそのまま散ってゆきたいと思う。



- | | | |
|----|------------------------|--------------------|
| 01 | 桜ライブラリー | 鍋島 直樹（法学部教授） |
| 02 | 資料の探し方 - 地域・コミュニティ - | 舟橋 和夫（社会学部教授） |
| 04 | 新入生に薦めたいこの1冊 | |
| 06 | 図書館の使い方（人物編 PART2） | |
| 07 | 大宮図書館改修工事に寄せて
TOPIC | |
| 08 | 「図書館の利用方法と大学生への提言」 | 吉村 真性（法学研究科博士後期課程） |

資料の探し方

—地域・コミュニティ—

舟橋 和夫 社会学部コミュニティマネジメント学科教授

これは、新入生のための資料の探し方についての簡単な解説です。新入生の中には、自分の住んでいる地域やコミュニティ、あるいは外国の未知の地域などに興味を持っている人も少なくないでしょう。そのような方々に、楽しみながらどのようにして地域の資料を探したらいいのか、簡単に説明したいと思います。また、特に今年度から社会学部に新学科、コミュニティマネジメント学科が開設されました。その新入生にとっては、日常の学習に結びつくものでもあります。

ところで、地域・コミュニティ研究の特徴は、研究室での机上の議論や研究だけではなく、現場すなわちフィールドを重視します。実証研究とか、フィールド・ワークといったものをとりわけ大切にするのです。2点目は、ある特定の学問分野のみと結びついているよりは、どちらかといえば学際的なアプローチ、あるいはホーリスティックな視点を強調します。だから、地域・コミュニティ研究は、積極的に特定の学問分野の境界を越えて、現場で学び、現場から新しい知見の創造を目指します。しかし、同時にあまりの多様さ・複雑さに圧倒されて、あいまいなものにならざるを得ない面も備えています。

さて、そのような地域・コミュニティをまじめに探求しようとする、何がなんだか分からなくなり大変です。ですから、まず頭の整理のために、図書館へ足を運んで

ください。図書館に足を踏み入れないと事は始まりません。そして、声を出さずに本棚を眺めながら、おもしろそうな本がないかみてまわってください。疲れたらコンピュータの前に座って、「龍谷大学蔵書検索システム(R-WAVE)」の画面を開きましょう。最初はキーワード検索の所に「地域学」という言葉を入れて、「検索」してください。次いで、「コミュニティ」という語を入れて、「検索」をかけてください。多くの書物があがってきます。

それらの中から、いくつか紹介しましょう。

古典を読むのは重要なことです。『コミュニティ』(R.M.マッキーヴァー著/中久郎・松本通晴監訳、ミネルヴァ書房)を推薦します。ゆっくり時間のある夏休みなどにこの書物を借りて、読んでください。もし原著で読みたいという人がいたら、それに挑戦するのもいいかもしれません。新しい世界が開けるかもしれないから。

また、まちづくりの実例からコミュニティを学びたいのなら、『よみがえるコミュニティ』(杉万俊夫編著、ミネルヴァ書房)を読むのはどうでしょう。フィールド・ワークの実際が事例を通して語られます。過疎の町・智頭町の事例、西陣での地域医療、ボランティアやNPOなど話題は豊富。

世界の地域を学ぶにもってこいの書物は、『地球地域学序説』(高谷好一著、弘文堂)です。世界を10の地域に分



左:『マスコミ学がわかる。』
右:『健康・スポーツの社会学』

類して、その地域特徴を平易な文章で述べています。その分類の根底にあるのは、生態的基盤と歴史的展開によって、多様な世界の地域を生き生きと描いています。

これだけではなく、コミュニティは人が一生を健康に過ごすところでもありますし、人と人がコミュニケーションを頻繁にとるところでもあります。コミュニティマネジメント学科はそのような観点も重要視します。以下にそれらを簡単に紹介します。

コミュニケーションとしてのジャーナリズムについては、李相哲社会学部コミュニティマネジメント学科助教授が次の書物を紹介してくれました。まずは、日本民間放送連盟が編纂した『放送ハンドブック』(東洋経済新報社)という本です。デジタル化と国際化の渦中にある日本のテレビ、ラジオ、衛星放送の現状を万遍なく紹介していますが、ほかにもマルチメディア時代の「多重放送」、「CATV」、「通信系メディア」、「パッケージ系メディア」についても紹介しています。ですから、次に何を読むべきかが分かってくるはずです。

『マスコミ学がわかる。』(朝日新聞社、アエラMOOK)はどうでしょう。その中には、「マスコミ入門書ガイド; これだけは読んでおきたいメディアもの」(鈴木雄雅)とか、「体験的マスコミ論」といった論文も掲載されています。自分が必要だと思うところを読み、さらに読書範

囲をひろげていくことも可能だといっておられます。

健康な体づくりについては、井上辰樹社会学部コミュニティマネジメント学科助教授に紹介してもらいました。1冊目は、社会の変化や生活スタイルの変化のなかで、健康とかスポーツの考え方をしっかりととらえ、これからの方向性についても、いくつかの示唆を得られるように配慮されている『健康・スポーツの社会学』(山口泰雄編著、建帛社)です。この本を読むことにより、健康とスポーツの社会的意義が学べ、人間の生涯において活動的・主体的な生活スタイルを実践することの重要性が認識できるというわけです。

『健康・スポーツの生理学』(角田聡編著、建帛社)は、運動やスポーツにおけるからだの生理学的な変化や適応について、運動生理学、運動生化学の基礎的な知識と最近の知見をわかりやすく解説した書物です。各章の最後には、関連している成人病と運動との関係についてもわかりやすくまとめてあります。これからスポーツに関わっていく人にとって、知っておくべき基礎的知識を学ぶための本です。

読み慣れてない本を読むのはつらいかもしれませんが、これら活字の本をあなたが思い切って読んでくれることを期待しています。新しい世界が開けます。

『古寺巡礼』

和辻哲郎著，岩波書店，1979年

大学生になれば、あれもしたい、これもしたいといろいろな願いがあるだろう。アルバイトやクラブに奔走するのも良いが、一方では心静かに古寺を訪れて仏像と対座し、自分の心を見つめるのも良い。龍谷大学は幸いに古都京都に在り奈良にも近い。そこで是非推薦したい書が和辻哲郎の『古寺巡礼』である。既にこの書は古典の部類に属するかも知れない。大正七年の五月に二十歳代であった著者が南都の寺々で受けた印象を情熱をこめて繊細なタッチで書き上げている。しかし自分を同じお寺に身を置けば、今日でも和辻と同様の感覚が伝わってくる。この感慨を味わって欲しい。

（文学部教授 浅田 正博）

『坂の上の雲』（全8巻）

司馬遼太郎著，文芸春秋，1978年

皆さんは現在の日本という近代国家がどのように成り立ってきたのか、あるいは日本人とは何かということを顧みることがありますか？

この本は、日本が近代国家に生まれ変わろうとする明治時代に生きた俳人正岡子規と軍人秋山好古・真之兄弟の生涯を通して日本の近代化を描いた小説です。明治は、社会・経済・軍事・文化などといった側面で、一步誤れば国家ひいては日本人が消滅するかもしれない危うい瀬戸際の時代でもあり、また一方で「坂の上」に浮かんた「雲」を目指して昇ろうとした群像が生きた色彩豊かな時代でもあります。それは日本の文化史や精神史を顧みるうえで非常にユニークな時代でもあったということが出来ます。

大学生になって物事をじっくりと考える時間ができたのを契機に、今一度日本という近代国家がどのように成り立ってきたのか、日本人とは何かを問い直すためにも小説に形を借りたこの本を是非一読されることをお勧めします。

（経営学部教授 藤田 誠久）

新入生
薦

この



『日本人の歴史意識 —「世間」という視角から—』

阿部謹也著，岩波書店，2004年

「今後ともよろしくお願いします」、このさりげない言葉の背景にはどんな人間関係があるのだろうか。日本では西洋にあったような意味での「個人」の確立がなかったとよく言われる。そんな日本社会には、西洋では影をひそめた生活世界が「世間」として今でも残っていると著者は論じる。この「世間」の中に生きる人々の行動原理には、贈与・互酬の関係、長幼の序、時間意識の共通性があるとされる。こう言うと難しそうだが、先の挨拶言葉も含め具体的に説明される場面には、おもわずうなずくことも多いと思う。この本では「世間」の歴史意識を中心に論じているけれども、ひろく自分と社会との関係を考える視点を提供してくれる著作である。なお著者は西洋中世史の研究者としても著名。

（経済学部助教授 小瀬 一）

『嘘の効用 末弘著作集』

末弘巖太郎著，日本評論社，1954年

このごろは法学の教科書も読みやすいものが増え、授業も以前に比べれば工夫され、わかりやすいものになってきました。でも、皆さんが法の世界に飛び込んで、本格的に勉強を始めようとしたとたん、必ず一度や二度は厚い壁に突き当たり、跳ね返される経験をするはず。そんなとき、一步引いて、斜めから、裏から法を眺めてみるのが有効です。それも、できれば適度な皮肉とユーモアのセンスを持ち合わせた、その道の達人の道案内で。この本はまさにそういう意味での最高の道案内です。人間や社会に対する、鋭く厳しい、そして暖かく信頼にあふれた著者の眼差し。その先にどんな法の世界が見えるのか。ワクワクしますね。ちょっと古いけど新鮮です。

（法学部教授 鈴木 龍也）

に
めたい
1冊

『真宗入門』

鈴木大拙著、佐藤平訳、春秋社、2001年

本書は、世界的に有名な仏教学者・禅思想家である鈴木大拙氏が到達した浄土真宗の「信」の世界を欧米へ紹介するために英文で書かれた講演筆録であり、佐藤平氏がそれを日本語に訳したものです。鈴木氏が晩年に到達した大乘仏教の完結編として位置づけた浄土教の「信」の世界、即ち親鸞聖人の浄土真宗の正意が分かりやすく書かれています。鈴木氏は、1950年代に既に当時の真宗理解に一石を投じることができ、浄土というものが死後の理想世界ではなく、生きている現実の世界に他力がならしめるパラダイムの転換として成就される世界であることを言明しています。浄土真宗を建学の精神とした本学の学生として、一度は読んで頂きたい本です。

(理工学部教授 大柳 満之)

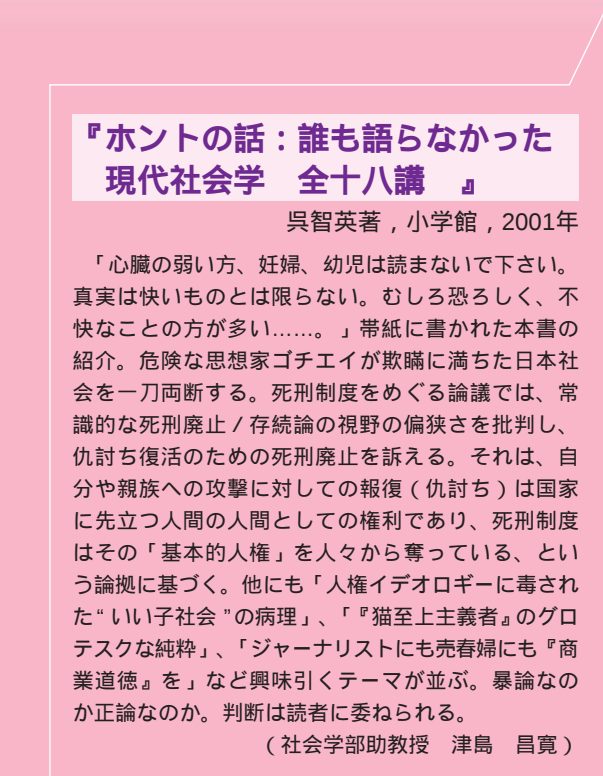


『ホントの話：誰も語らなかった現代社会学 全十八講』

呉智英著、小学館、2001年

「心臓の弱い方、妊婦、幼児は読まないで下さい。真実は快いものとは限らない。むしろ恐ろしく、不快なことの方が多い……。」帯紙に書かれた本書の紹介。危険な思想家ゴチエイが欺瞞に満ちた日本社会を一刀両断する。死刑制度をめぐる論議では、常識的な死刑廃止／存続論の視野の偏狭さを批判し、仇討ち復活のための死刑廃止を訴える。それは、自分や親族への攻撃に対する報復（仇討ち）は国家に先立つ人間の人間としての権利であり、死刑制度はその「基本的人権」を人々から奪っている、という論拠に基づく。他にも「人権イデオロギーに毒された“いい子社会”の病理」、「『猫至上主義者』のグロテスクな純粋」、「ジャーナリストにも売春婦にも『商業道徳』を」など興味引くテーマが並ぶ。暴論なのか正論なのか。判断は読者に委ねられる。

(社会学部助教授 津島 昌寛)



『フィールドワーク最前線 —見る・聞く・歩く—』

山田勇編、弘文堂、1996年

フィールドワークって、なんだろう？ いや、そんな面倒な話は抜きにしましょう。ともあれ、現場に出かけること、未知の自然の中に、あるいは、知らない人々の世界に飛び込むこと。それで十分です。

そこに発見と感動があり、そして、疑問が生まれます。それが学びの出発点です。

この本につづられているのは、皆さんとそれほど歳の違わない若い研究者たちが、世界各地で経験した、そんな感動や発見の記録です。

現場は、書物と同じように、知識や感動の源です。この本を読んだら、次は、あなた自身が飛び立つ番です。意外に身近なところにも、「あなたの」フィールドはあるはずです。

(国際文化学部教授 吉村 文成)



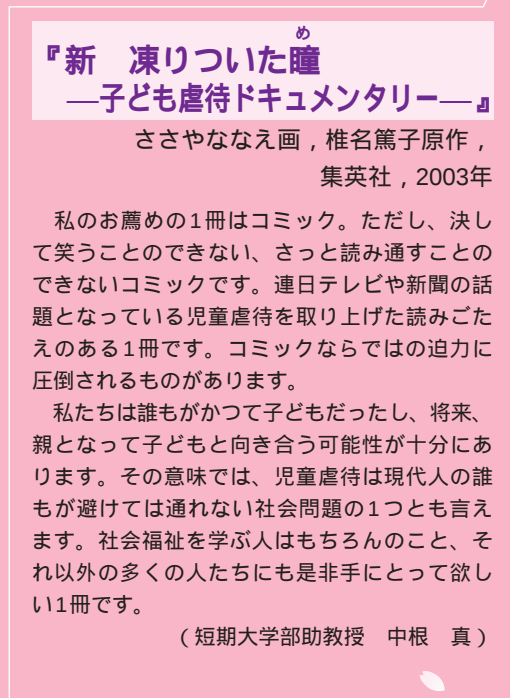
『新 凍りついた瞳 —子ども虐待ドキュメンタリー—』

ささやなえ画、椎名篤子原作、集英社、2003年

私のお薦めの1冊はコミック。ただし、決して笑うことのできない、さっと読み通すことのできないコミックです。連日テレビや新聞の話題となっている児童虐待を取り上げた読みごたえのある1冊です。コミックならではの迫力に圧倒されるものがあります。

私たちは誰もがかつて子どもだったし、将来、親となって子どもと向き合う可能性が十分にあります。その意味では、児童虐待は現代人の誰もが避けては通れない社会問題の1つとも言えます。社会福祉を学ぶ人はもちろんのこと、それ以外の多くの人たちにも是非手にとって欲しい1冊です。

(短期大学部助教授 中根 真)



Step 創業者名をどのように調べるか？

Study 1 社史から...

社史では創業からの歴史や事業の内容を知ることができます。深草図書館では、社史をコレクションとして収集しており、R-WAVE(龍谷大学蔵書検索システム)で社名をキーワードとして検索することができます。

■Point 商号(社名)変更・改組している場合がありますので、『会社年鑑』(日本経済新聞社)、『会社総鑑』(日本経済新聞社)で確認しておきましょう。

例えば、電気機器メーカーのオムロン株式会社を『会社年鑑』で見ると、「オムロン株式会社」の商号は、前身である「立石電機製作所」から変更されていることがわかります。このような変更以前の商号をキーワードとして検索することも必要です。

「立石電機」をキーワードとして検索すると検索結果は次のようになります。

『立石電機の30年：1933-1963』(立石電機社史編纂委員会) 深

『創る育てる：立石電機55年のあゆみ』(立石電機) 深

『Omron technics』(立石電機) 瀬

Study 2 有価証券報告書から...

大学内の端末からはデータベース「e-Report@有報」を使って有価証券報告書等の企業情報を検索することができます。検索結果の「会社の概況」に企業の沿革が掲載されていますので、その内容から創業者名を知ることができます。

Study 3 ホームページから...

各企業のホームページでは、会社の沿革や創業者について説明されていますので、有効に利用すると素早く情報を入手することができるでしょう。

図書館の 使い方

人物編 PART2

図書館報来・ぶらり28号で紹介した図書館の使い方(人物編)に照らしながら、今回は少し視点を変えて、ある事例についての人物情報の探し方を紹介します。一例として、日本企業の創業者にスポットを当てて調べてみることにしましょう。

深：深草図書館所蔵 大：大宮図書館所蔵 瀬：瀬田図書館所蔵

Step 人物の情報をどのように調べるか？

Study 1 人物辞典(事典)・データベースから...

人物が特定できたら、前号の図書館の使い方(人物編)を参考にしてください。その人物の詳しい情報を得ることができます。

Study 2 その他の人物情報源から...

調べたい人物の自叙伝や、回顧録、日記等もあります。これらは本来情報を客観的に伝えることを目的としていませんが、そのようなものであると心得て使うならば情報源として活用できるでしょう。

『私の履歴書』(日本経済新聞社) 深・瀬

また他の人によって書かれた個人伝や叢伝などの伝記・評伝であれば客観的に書かれていると考えられますが、記伝者が調べたい人物に対して公正な評価を下せる関係にあるのか、情報を十分に収集できる立場にあるのか等を考慮にいった上で情報源として利用しましょう。

Step 人物の時代背景をどのように調べるか？

Study 1 年表から...

年表は歴史的な事件・出来事について年月を追って日付順に配列したものです。様々な歴史的事項の年代順索引として利用できます。

『20世紀年表』(毎日新聞社) 深・大

『毎日新聞戦後の重大事件早見表』(毎日新聞社) 深・大

『日本の会社100年史』(東洋経済新報社) 深

Study 2 歴史事典・ニュース事典から...

歴史事典は、さまざまな歴史的背景について記述しているので、過去の出来事や一般的な歴史的事実を調べる場合に手取り早く知ることができます。

『最新昭和史事典』(毎日新聞社) 深・大

『昭和ニュース事典』『大正ニュース事典』『明治ニュース事典』(毎日コミュニケーションズ) 深・大・瀬

Study 3 年鑑・白書から...

年鑑・白書は年間の概況を中心に、統計、表、図などを用いて解説した年刊の逐次刊行物です。比較的近年の事項について調べるのに役立ち、年々の新しい動向を追っていくのに便利です。

『朝日年鑑』(朝日新聞社) 深・大・瀬

『中小企業白書』(中小企業庁) 深・瀬

『経済財政白書』(内閣府) 深・瀬

大宮図書館改修工事に寄せて



大宮図書館は全館改修工事を経て2005年度中に時代に即応した図書館機能の充実、利用者側に目を向けた施設として新しく生まれ変わります。

貴重な古典籍本の宝庫でもあります大宮図書館が、2003年の夏から本格的な改修工事に入りました。工事はほぼ2年半を費やして全館を改修、2005年度中に竣工の予定です。

そもそも大宮図書館は、昭和11年（1936年）に地上三階地下一階として建てられてから今日まで70年近くの長い風雪に耐えてきました。今では国宝を含む重要文化財並びに本願寺歴代宗主の蔵書を収集した写字台文庫（稀覯本を含む貴重書を数多く収蔵）や大谷探検隊収集資料等、60万冊を超える図書資料を収蔵する国内有数の図書館となっています。

こうした学術的にも価値の高い貴重な財産を保有する図書館が、新しい機能に対応できる図書館、利用者により高い情報を発信できる図書館として時代の要請に添えていく上で、図書館の改修は避けては通れない大きな事業でありました。

改修工事はそうした経緯の下で始まりましたが、しかし、工事中は当初から様々な事情で利用される方々にご不便をおかけしなくてはならない事態が発生しています。

図書館では、工事関係者と共に出来る限り利用者への支障を最小限に留めるべく努力を致しておりますが、館内でのご利用にあたって何かとご不自由をおかけしなければならない事態への対応につきましては、利用者の皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

図書館がますます利用しやすくなりました。

2004年度より、深草図書館・瀬田図書館では日曜日も開館します。館によって開館日が異なりますので、詳細はライブラリーガイドおよび学術情報センターホームページをご覧ください。

日曜開館時間		
深草図書館	通常期・定期試験前・試験期間	10:00～17:00
瀬田図書館	定期試験前・試験期間	10:00～17:00

データベース講習会に参加しよう！

図書館では、定期的にデータベースを使った検索講習会を開催しています。レポート・論文の作成や、就職活動にむけた企業情報の収集に役立てて下さい。詳細については、各図書館掲示板および学術情報センターホームページでお知らせします。

電子ジャーナルがさらに充実しました。

2004年度から私立大学図書館コンソーシアム（PULC）への参加により、Blackwell、Oxford University Press、Wileyの3社が提供する電子ジャーナル約1,000タイトルへアクセスが可能となりました。本学の冊子体所蔵の有無に関わらず、コンソーシアム契約したジャーナルがフルテキストで利用できます。学術情報センターホームページの資料検索ページより閲覧できます。

私と図書館との関わりは、大学時代に始まり、その機能性も年々向上しています。現在、私は本学大学院博士課程において、刑事訴訟法を専攻し、その中でも犯罪被害者と刑事司法の関わりに焦点を当てて研究しており、大学院と兼務する形で、龍谷大学矯正・保護研究センターにおいてリサーチ・アシスタントをしています。現在、私が研究をする上で、図書館は必要不可欠な存在となっています。忙しい日には、朝から晩まで図書館で資料収集をしていることもあり、図書館は多様な情報の宝庫と言えます。その宝庫を如何にして使いこなせるかが皆さんの無限の可能性を引き出すポイントです。

大学時代は講義の予習・復習、自習、ゼミでの発表等に向けてのリサーチに利用していました。図書館は、活用してみると極めて機能的な構造・システムになっており、それをマスターすれば新入生から有効に使いこなすことができます。その利用方法によっては無限の潜在性・可能性を引き出すことができる場所と言えます。

図書館には様々な資料・専門書があり、さらに、自分の推薦する図書の購入を申請する制度もあります。私自身、大学生時代から現在に至るまで貴重な論文資料などを集めるために、活用してきました。

また、図書館には有能なスタッフの方々が勤務されているので、資料の検索・収集に関して、懇切丁寧に適切な助言をしていただき、大変感謝しています。そのお陰で無事に論文を執筆することができます。

具体的な活用方法としては、図書館にはインターネットスペースもあり、インターネットで関連する分野の必要な論文を検索し、それを図書館に所蔵しているか否かを調べ、存在している場合はそれを探してコピーする。未所蔵の場合には、所蔵する近くの大学を探

「図書館の利用方法と大学生への提言」

して、自らその大学まで伺うか、文献複写申請を行います。また、深草図書館には隣接して社会科学研究所があるので、衆参両議院の議事録など、官報や統計資料に至るまで、様々な公的資料を収集することができます。また、不明な点があれば、スタッフの方々にお聞きすることができます。このように図書館は学生にとって、極めて勉強しやすい環境で、機能的な構造になっています。

大学生の皆さんは、将来、研究者や弁護士・検察官・裁判官等の法曹を志す方、公務員を志す方、企業の第一線で活躍することを志す方など、様々な進路を予定しているでしょうが、情報収集能力や資料の分析能力というものを向上させておくことは、将来に向けての「自己投資」であり、大学でマスターしておくべき最低限の課題です。近年、日本の企業経営は年功序列型から、アメリカ型の能力主義へ移行し始めています。このような社会において他者よりも優れた情報収集能力と分析力を身に付けることは、極めて重要な投資であり、大きな利益の還元となる事でしょう。そういった意味においても、図書館を如何にして合理的且つ機能的に活用し得るかが将来の利益につながるでしょう。大学時代に、何をどのように学ぶかによって、今後の進路が大きく左右します。「真実を求め、真実に生き、真実を顯かにする」建学の精神をもつ龍谷大学は、365年以上の伝統をもち、貴重な文献資料などを所蔵していると同時に、常に先進的な研究を追及しており、そのような環境において学ぶことができる機会を大いに役立ててほしい。

皆さんが大いに図書館を有効活用し、大きな夢と自信をもって、自分の夢に立ち向かってくれることを願います。

合掌

(法学研究科博士後期課程 吉村 真性)

books essay・エッセー募集

次号(10月発行予定)に掲載するエッセー(600字~650字)を募集します。本や図書館をテーマにしたものであれば、なんでも結構です。

採用された方には図書券を差し上げます。詳しくは各図書館カウンターまで。

龍谷大学図書館報

来・ぶらり 第29号

2004年4月発行

編集・発行 龍谷大学学術情報センター
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL. 075-645-7885 (ダイヤルイン)
<http://opac.lib.ryukoku.ac.jp>